

令和 9 年度

山口大学大学院人間社会科学研究科

共創科学専攻（修士課程）

学生募集要項

一 般 入 試

出願や入学試験に関する重要な情報・お知らせ等はホームページでお知らせしますので、
出願前や受験前は特に確認してください。

山口大学大学院人間社会科学研究科

<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/hes/exam/index.html>



お問い合わせ先：山口大学国際総合科学部学務係

TEL 083-933-5288

◆◆◆ 目 次 ◆◆◆

I 学生募集要項

山口大学のアドミッション・ポリシー	1
人間社会科学研究科のアドミッション・ポリシー	1
共創科学専攻のアドミッション・ポリシー	2
第1 入学者選抜の概要	3
1. 選抜方法	
2. 入試日程	
第2 募集人員	3
第3 出願資格	3
第4 出願手続等	5
1. 出願期間	
2. 出願書類等	
3. 出願方法	
4. 検定料の返還について	
5. 個人情報の利用について	
第5 選抜方法等	10
1. 選抜方法	
2. 評価基準	
3. 学力検査実施科目等	
4. 配点	
5. 外部試験の活用について	
第6 学力検査の日時及び試験場等	10
1. 試験場案内	
第7 受験上の注意	11
第8 障害等のある入学志願者との事前相談について	12
第9 合格発表	12
第10 入学手続	12

第 11 入学時の主な必要経費	13
1. 入学料及び授業料	
2. その他諸経費	
第 12 入学料の免除及び徴収猶予並びに授業料の免除	13
1. 入学料の免除及び徴収猶予	
2. 授業料の免除	
3. 入学料の免除及び徴収猶予並びに授業料の免除問い合わせ先	
第 13 教育方法の特例について	14

II 人間社会科学研究科案内

1. 人間社会科学研究科の概要	15
2. 共創科学専攻の概要	15
3. 教員・研究内容紹介	15

III 出願書類様式

1. 入学志願票	20
2. 受験票・写真票	22
3. 研究計画書	23
4. 受験承諾書	25
5. 出願資格事前審査申請書	26
6. 事前相談書	28

※出願書類は、下記 HP からダウンロードし、使用してください。

<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/hes/exam/index.html>

I 学生募集要項

山口大学のアドミッション・ポリシー

山口大学は、「山口大学憲章」に掲げる基本理念に基づき、大学院のディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を定め、「発見し、はぐくみ、かたちにする」を実践し、地域、日本、世界に寄与できる人材の育成を目指します。そのために、次のような学生の入学を求めています。

●求める学生像

- [1] 「発見し、はぐくみ、かたちにする」を實踐して理論的・実践的研究を遂行するために必要な専門的知識・技能及び意欲をもつ人
- [2] 様々な視点から物事を論理的・批判的に考え問題解決につなげることができる人
- [3] 豊かな人間性と社会性を備え、自律心と倫理観をもって他者と協働することができる人

このような学生を適正に選抜するために、大学院の募集単位ごとに、多様な選抜を実施します。

●入学者選抜の基本方針

山口大学大学院の教育を受けるにふさわしい能力・適性を備えた入学者を受け入れるために、各研究科が求める能力・適性を多面的・総合的に評価し、選抜します。

人間社会科学研究科のアドミッション・ポリシー

山口大学大学院人間社会科学研究科では、「山口大学憲章」に掲げる基本理念に基づき、人と社会に関する学問分野や専門領域の研究をさらに深化させ、広い視野をもって地域、日本、世界に寄与できる人材の育成を目指します。そのために次のような学生の入学を求めています。

●求める学生像

- [1] 人や社会に関する専門的な知識・技能に関心を持ち、研究を通して、より深くそれらを理解し学ぼうとする人
- [2] 優れたコミュニケーション力や多様な文化的背景を有する人々に関心を持ち、地域社会や国際社会の人々と協働しようとする人
- [3] 一人一人の人間が中心となる社会を目指し、社会における諸課題の解決のために自己研鑽の意欲を持つ人
- [4] グローバルで持続可能な共生社会の実現に向けて世界で活躍する意欲のある人

山口大学大学院人間社会科学研究科共創科学専攻のアドミッション・ポリシー

山口大学大学院人間社会科学研究科共創科学専攻では、学問分野や専門領域の枠を超えた総合的研究力を駆使して、多様かつ変容著しい現代社会の課題に広い視野をもって解決に導く人材の育成を目指します。そのために次のような学生の入学を求めています。

◆求める学生像

- [1]社会課題に関心を持ち、人と社会に関する分野や専門領域の枠組みを超えた研究を基に、より深くそれらを理解し学ぼうとする人
- [2]多様な文化的背景を有する人々とのコミュニケーションに関心を持ち、地域社会や国際社会の人々と協働することに意欲のある人
- [3]多様な専門知やデザイン思考、データサイエンスを修得し、それらを統合して新たな価値を社会に生み出そうとする人
- [4]グローバルな視点で持続可能な共生社会の実現を目指し、修得した知識・技術・能力を駆使して国内外で活躍しようとする人

入学者選抜の基本方針

山口大学大学院人間社会科学研究科共創科学専攻の教育を受けるにふさわしい能力・適性を備えた入学者を受け入れるために、共創科学専攻が求める能力・適性を多面的・総合的に評価し、選抜します。

一般入試では、筆記試験、口述試験により判定します。

入学試験で重視するポイント

選抜内容	理論的・実践的研究を遂行するために必要な専門的知識・技能	物事を論理的・批判的に考え問題解決につなげることができる能力	豊かな人間性、社会性、倫理性と協働性の兼備
筆記試験	○	◎	
口述試験	◎	○	○

◎：強く重視して評価する ○：強く評価する

第1 入学者選抜の概要

1. 選抜方法

一般入試のみとなります。

2. 入試日程

(第1次募集)

区 分	日 程 等
出 願 期 間	令和8年10月5日(月)～10月9日(金)
試 験 日	令和8年10月31日(土)
合 格 発 表	令和8年11月12日(木) 正午
入 学 手 続	令和8年11月19日(木)～11月25日(水)

(第2次募集)

区 分	日 程 等
出 願 期 間	令和9年1月18日(月)～1月22日(金)
試 験 日	令和9年2月16日(火)
合 格 発 表	令和9年3月10日(水) 正午
入 学 手 続	令和9年3月15日(月)～3月19日(金)

※第1次募集の入試で募集人員に達した場合は、第2次募集の入試を実施しません。

※第2次募集実施の有無については、第1次募集入学手続き期間後に人間社会科学研究科ホームページ(<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/hes/exam/index.html>)で公表する予定です。

第2 募集人員

(第1次募集)

専 攻	募集人員
共創科学専攻	6名
計	6名

(第2次募集)

専 攻	募集人員
共創科学専攻	若干名
計	若干名

第3 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とする。

1. 大学を卒業した者又は令和 9 年 3 月 31 日までに卒業見込みの者
2. 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 104 条第 7 項の規定により独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者又は令和 9 年 3 月 31 日までに授与される見込みの者
3. 外国において、学校教育法における 16 年の課程を修了した者又は令和 9 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
4. 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者又は令和 9 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
5. 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は令和 9 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
6. 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって学校教育法施行規則第 155 条第 1 項第 4 号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は令和 9 年 3 月 31 日までに授与される見込みの者）
7. 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は令和 9 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
8. 文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年 2 月 7 日文部省告示第 5 号）
9. 外国人留学生は、上記に加え、独立行政法人国際交流基金と公益財団法人日本国際教育支援協会が主催する「日本語能力試験」を受験し、N2 以上の認定を受けている者

（以下の出願資格 10、11 及び 12 により出願を希望する者は、事前審査を受ける必要がありますので、下記に示す期間に必要書類を提出してください。）

10. 学校教育法第 102 条第 2 項の規定により他の大学院に入学した者であって、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
11. 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和 9 年 3 月 31 日までに 22 歳に達するもの
12. 令和 9 年 3 月末日で次のいずれかに該当する者で、所定の単位を優れた成績で修得したと本研究科において認めた者

- (1) 大学に3年以上在学した者
- (2) 外国において学校教育における15年の課程を修了した者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

≪事前出願資格審査の手続き≫

①審査の申請書類

- ・出願資格事前審査申請書：所定の様式
- ・最終学校の卒業証明書又は在学（在籍）証明書
- ・最終学校の成績証明書

②審査申請期間

○第1次募集

令和8年9月4日（金）まで

○第2次募集

令和8年12月11日（金）まで

③審査申請書類提出先

〒753-8541

山口市吉田 1677-1 国際総合科学部学務係

TEL：083-933-5288 FAX:083-933-5293

第4 出願手続等

1. 出願期間

○第1次募集

令和8年10月5日（月）～10月9日（金）必着

○第2次募集

令和9年1月18日（月）～1月22日（金）必着

- (1) 受付時間は、9時00分から17時00分までとします。
- (2) 郵送による場合は、期日までに必着するよう、郵送期間を十分考慮のうえ、発送してください。出願書類は、「特定記録郵便速達」で発送してください。
また、郵便局の窓口では、「特定記録郵便物受領証」を必ず受領して、大切に保管しておいてください。
※「特定記録郵便物受領証」の番号を使用して日本郵便のホームページ上で、郵送の状況が確認できます。

2. 出願書類等 ※様式は HP に掲載しています。ダウンロードして活用してください。

提出書類	提出該当者	備考
入学志願票 写 真 票 受 験 票	全員	本研究科所定の用紙に必要事項を記入してください。なお、写真票の所定欄に、写真（4 cm×3 cm、上半身・無帽・正面向きで出願前 3 か月以内に撮影したもの）を貼ってください。 ※受験票は、志願票記載の「受験票、合格通知書等郵送先住所」に記載された住所に返送します。
卒業（修了）証明書 又は 卒業（修了）見込証明書	該当者	出身大学（校）長又は学部長が作成したもの。なお、英語以外の外国語で作成されたものは日本語訳又は英語訳を添付してください。ただし、本学の教育学部、国際総合科学部卒業見込み者（卒業者）は不要です。
学位授与証明書	出願資格のうち、2.に該当する者	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が発行したもの。申請予定の場合は、学位授与申請予定証明書（様式任意）
成績証明書	全員	出身大学（校）長又は学部長が作成厳封したもの。なお、英語以外の外国語で作成されたものは日本語訳又は英語訳を添付してください。ただし、本学の教育学部、国際総合科学部卒業見込み者（卒業者）は不要です。
研究計画書	全員	本研究科所定の用紙に研究題目及び研究動機等を記入してください。（日本語又は英語） 事前に入学後、指導を希望する教員と相談のうえ、作成・提出してください。
検定料	全員	30,000 円 下記口座に支払い、支払ったことが分かるもの（領収書）を、入学志願票裏面の所定欄に貼り付けてください。なお、出願書類を受理した場合は、後記 4.（1）の検定料を返還請求できる場合を除き、いかなる理由があっても払込済の検定料は返還しません。 （振込先口座） ゆうちょ銀行 当座預金 01320-1-40704 支店番号 139 支店名 一三九店（イチサンキユウ店） （加入者名）国立大学法人 山口大学 ※振込名義人は <u>志願者本人名</u> とし、下記のとおりとして

		ください。(専攻名+志願者名) 例) キョウソウカガク ヤマダイタロウ ※振込手数料は振込人負担となりますので、過不足なくお支払いください。
受験承諾書	該当者	学校・官公庁及び会社等に在職中で、現職のまま入学しようとする者は、本研究科所定の用紙により、所属長の受験承諾書を提出してください。
外国語検定試験の成績を証明する書類	該当者	外国語検定試験を活用する者は次のいずれかを以下の方法で提出してください。いずれも 2023 年 4 月以降に取得したものに限り。ただし、活用する試験については母語でないことが条件となります。 (提出書類) ・ 実用英語技能検定 (英検) : 合格証明書 ・ TOEIC (L&R) : Official Score Report (公式認定証) ・ TOEFL iBT : Test Taker Score Report (受験者用控えスコアレポート) ・ IELTS (アカデミック・モジュール) : 成績証明書 (Test Report Form) ・ 日本語能力試験 : N1 合格を示す「日本語能力認定書」あるいは「認定結果及び成績に関する証明書」 ※日本語能力認定書又は認定結果及び成績に関する証明書がない場合は、再発行をして提出してください。受験した国・地域によっては再発行に時間がかかりますので、留意してください。 ※2026 年に日本国内で実施された第 1 回試験の場合には、「合格」を示す「合否結果通知書」で構いません。 (提出方法) 当該検定試験実施機関が発行した証明書類 (コピー可) を、出願書類に同封し提出してください。 TOEFL iBT については、郵送版の「Test Taker Score Report」のコピーのみ有効とし、PDF 版の「Test Taker Score Report」を印刷したものは認められません。
外国籍を証明する書類	外国籍を有する者	日本国籍以外の者。在留カードの写し又はパスポートの写し
日本語能力試験の成績	外国籍を有する者	日本語能力試験 : N2 合格を示す「日本語能力認定書」あるいは「認定結果及び成績に関する証明書」

		※日本語能力認定書又は認定結果及び成績に関する証明書がない場合は、再発行をして提出してください。受験した国・地域によっては再発行に時間がかかりますので、留意してください。 ※2009 年以前に旧日本語能力試験を受験した人は、当該試験において 2 級以上の判定を受けたことを証明する書類をもって代替することができます。 ※2026 年に日本国内で実施された第 1 回試験の場合には、「合格」を示す「合否結果通知書」でも構いません。 ※【外国語検定試験の成績を証明する書類】として N1 合格を証明する書類を提出している場合には、重複しての提出は必要ありません。 下記に該当する者は、日本語能力に関する条件は求めません。 ・日本語を主たる教授言語とする日本の 4 年制大学を卒業し学位を取得した者
--	--	---

(注) 出願書類提出後は、入学志願票等記載事項の変更は一切認めません。

3. 出願方法

(1) 入学志願者は、前記 2.の出願書類等を一括して、下記の提出先に提出してください。

郵送する場合は、特定記録郵便速達としてください。

なお、出願の際は、封筒の表に「共創科学専攻出願書類在中」と朱書きし、封筒の裏側に差出人の郵便番号・住所・氏名を明記してください。

(2) 提出先

〒753-8541

山口市吉田 1677-1 山口大学国際総合科学部学務係

TEL : 083-933-5288

FAX : 083-933-5293

4. 検定料の返還について

(1) 次に該当した場合は、納付済の検定料を返還します。

- ① 検定料を納付済みであるが本研究科に出願しなかった場合
- ② 検定料を誤って二重に納付した場合又は誤って所定の金額より多く納付した場合
- ③ 出願書類等を提出したが出願が受理されなかった場合

(2) 返還請求の方法

上記①又は②に該当した場合は、＜検定料返還に関する問い合わせ先＞に連絡してください。連絡があった後に「検定料払戻請求書」用紙を送付しますので、必要事項を記入のうえ郵送してください。

また、上記③に該当した場合は、出願書類等返却の際に「検定料払戻請求書」用紙を同封しますので、必要事項を記入のうえ、＜検定料返還に関する問い合わせ先＞へ郵送してください。

＜検定料返還に関する問い合わせ先＞

〒753-8511

山口市吉田 1677-1 山口大学財務部財務課出納係

TEL：083-933-5098

財務部財務課では、検定料返還に関する問い合わせのみを受け付けます。

入学試験に関することは、8 ページ 3.出願方法 (2) 提出先へ直接問い合わせてください。

5. 個人情報の利用について

本選抜において出願の際に提出いただいた出願書類等で得た個人情報は、本学の入学者選抜に関わる業務のほか下記の業務に利用します。なお、個人情報の保護に関する法律第18条第3項各号及び第27条第1項各号に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

- (1) 合格者の受験番号、住所及び氏名等の個人情報を、入学手続に関わる業務に利用します。
- (2) 入学手続者の受験番号、氏名、性別、生年月日、出身大学等の個人情報を学籍管理等の修学指導に関わる業務及び健康診断等の保健管理に関わる業務並びに厚生補導に関わる業務に利用します。
- (3) 入学者選抜で取得した入学手続者に関わる成績等の個人情報を、入学料免除、入学料徴収猶予、第1年次における授業料免除及び奨学生採用等の経済支援に関わる業務に利用します。
- (4) 入学者選抜で取得した成績等の個人情報を、統計処理業務及び本研究科における入学者選抜方法の改善に関わる調査・研究に利用します。
- (5) その他本法人の定める「学生・保護者等に係る個人情報の取扱いについて」※に従って個人情報を利用します。

※「学生・保護者等に係る個人情報の取扱いについて」は山口大学のホームページでご覧いただけます。

URL:https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~soumuka/jyouhou/personal/policy/guide_student.html

第5 選考方法等

1. 選抜方法

一般入試は、出願書類及び学力検査（筆記試験・口述試験）の結果を総合して行います。

2. 評価基準

教科等	評価基準
筆記試験	論理的思考力を総合的に評価します。
口述試験	専門的知識、表現力、論理的思考力、協働性、勉学意欲について総合的に評価します。

3. 学力検査実施科目等

ア 筆記試験

一般的な論理的思考力を問う1題、1問解答の記述式とします。

イ 口述試験

志望する研究分野の志望理由、研究計画書の内容を含めた専門的知識、協働性、勉学意欲、表現力、論理的思考力について問います。

4. 配点

筆記試験	口述試験	合計
400点	600点	1,000点

5. 外部試験の活用について

一定のスコアを取得している者（下記参照）については、筆記試験（400点満点）の得点として、満点を上限に40点加算します。 ※IELTSはoverallのスコアになります。

実用英語技能 検定（英検）	TOEIC (L&R)	TOEFL iBT	IELTS	日本語能力 試験
2450以上	850以上	83以上	6.0以上	N1

第6 学力検査の日時及び試験場等

※ 学力検査当日は、8時30分までに国際総合科学部学務係で受付を行ってください。

※ 試験室については、受付時にお知らせします。

○第1次募集

日時		学力検査等	試験場
令和8年10月31日(土)	9時00分～10時00分	筆記試験	山口大学国際総合科学部
	10時30分～	口述試験	

○第2次募集

日時		学力検査等	試験場
令和9年2月16日(火)	9時00分～10時00分	筆記試験	山口大学国際総合科学部
	10時30分～	口述試験	

1. 試験場案内

山口大学吉田キャンパス 国際総合科学部 / 山口市吉田 1677-1



(試験場までの交通アクセス)

- JR 新山口駅から JR 山口線「湯田温泉駅」下車

湯田温泉駅入口バス停から JR バス 山口大学行「山口大学」下車

(徒歩の場合、JR 湯田温泉駅から約 25 分)

- JR 新山口駅北口（在来線口）から防長バス「県庁前（平川経由）」行「山口大学前」下車。徒歩約 3 分

- JR 新山口駅から車で約 30 分



第 7 受験上の注意

1. 学力検査当日は、受付で「山口大学大学院人間社会科学研究科受験票」を提示してください。
2. 学力検査開始時刻 20 分前までに所定の試験室に入り、受験票の受験番号と同一の席に着いてください。なお、疾病等いかなる理由にかかわらず学力検査開始後 20 分を経過した場合は、当該科目等の受験はできません。
3. 学力検査中は、監督者の許可がなければ試験室に出入りすることができません。
4. 学力検査に不要な携行品は、監督者の指示する場所に置いてください。また、携帯電話等は、試験室に入る前にアラームの設定を解除し必ず電源を切って、かばん等に入れてくだ

さい。試験が終了するまで、携帯電話等の通信機器を身に付けていることが判明した場合には、不正行為として取扱います。

5. 受験者の宿泊については本学ではあつ旋していません。

第8 障害等のある入学志願者との事前相談について

本学では、障害等があつて受験及び修学上の特別な配慮を必要とする入学志願者のための相談を受け付けています。相談を希望する者は、受験及び修学上必要な配慮について協議しますので、所定様式：事前相談書（HP からダウンロード可）を用いて、国際総合科学部学務係へ申し出てください。

ただし、下記書類期限に申し出がなかった場合、受験上の配慮が講じられない場合もありますので、十分注意してください。

1. 申出先 国際総合科学部学務係 TEL：083-933-5288 FAX：083-933-5293
2. 提出期限 ○第1次募集
令和8年9月 4日（金）
○第2次募集
令和8年12月11日（金）

第9 合格発表

合格者の発表は、山口大学大学院人間社会科学研究科ホームページに合格者の受験番号を掲載します。また、合格者には合格発表日に「簡易書留速達」で合格通知書及び入学手続関係書類を郵送します。なお、電話その他による可否の問い合わせには一切応じません。

○第1次募集

日 時	場 所（ホームページ URL）
令和8年11月12日（木）正午	https://www.yamaguchi-u.ac.jp/hes/exam/index.html

○第2次募集

日 時	場 所（ホームページ URL）
令和9年3月10日（水）正午	https://www.yamaguchi-u.ac.jp/hes/exam/index.html

第10 入学手続

合格者は、次の期間内に所定の入学手続を行ってください。

○第1次募集：令和8年11月19日（木）～11月25日（水）（必着）

○第2次募集：令和9年3月15日（月）～3月19日（金）（必着）

1. 受付時間は、9時から17時までとします。
2. 郵送の場合は、各手続最終日の17時必着とします。なお、所定の期日までに入学手続を完了しない者は、入学を辞退したものとして取扱います。

第 11 入学時の主な必要経費

1. 入学料及び授業料

入学料（入学手続き時に納付）	282,000 円（予定額）
授業料（入学後の納付）	半期分 321,480 円（予定額）
	年額 642,960 円（予定額）

- <注> 1.本募集要項公表後、令和 9 年度入学者に係る入学料、授業料の改定を本学として決定した場合は、改定後の額となります。また、既に納入されていた場合は、改定額との差額を納入していただくこととなります。
- 2.既納の入学料はいかなる理由があっても返還しません。
- 3.在学中の授業料の納付は、入学手続き時に郵便局・ゆうちょ銀行へ提出する自動払込利用申込書(入学手続き書類とともに郵送します。)に基づき、前期分は 5 月末日、後期分は 11 月末日(末日が土・日曜の場合は、その前の平日)にゆうちょ銀行の学生(又は学資負担者)名義の口座から自動的に引き落とし大学に納付することとなります。引落日の前日までに必ず入金しておいてください。
- 4.入学料及び授業料について納付を免除する制度があります。入学料の免除及び徴収猶予並びに授業料の免除の詳細については、学生支援部学生支援課経済支援係(TEL:083-933-5611)に必ず問い合わせてください。
- 5.授業料は、在学中に授業料改定を行った場合、新授業料を適用します。

2. その他諸経費

学生教育研究災害傷害保険	2,430 円（2 年間）
--------------	---------------

第 12 入学料の免除及び徴収猶予並びに授業料の免除

1. 入学料の免除及び徴収猶予

本人の申請に基づき、選考のうえ、予算の範囲内で入学料を免除する制度及び、選考のうえ、入学料の納入を猶予する制度があります。

(1) 対象者

次の申請資格のいずれかに該当する場合は、申請することができます。

ア.経済的理由により入学料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合

イ.入学前 1 年以内において、「学資負担者」が死亡し、又は本人若しくは学資負担者が、日本国内で風水害の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる場合

(2) 入学料免除は入学手続きの際に「入学料免除願・徴収猶予願」の提出が必要です。合格時に郵送される「入学の手引」で申請について確認のうえ、手続きをしてください。

(3) 免除の申請を行った者は、免除の許可・不許可が決定するまで、入学料の徴収が猶予されます。なお、徴収猶予が許可された者は、8 月末まで納入が猶予されます。

2. 授業料の免除

本人の申請に基づき、選考のうえ、予算の範囲内で授業料の全額又は半額を免除する制度があります。

(1) 対象者

次の申請資格のいずれかに該当する場合は、授業料の免除を申請することができます。ただし、学力が一定の基準に達しない場合又は所得が一定の基準を超える場合は、免除されません。

ア.経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合

イ.入学前1年以内において、「学資負担者」が死亡した場合、又は本人若しくは学資負担者が日本国内で風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が著しく困難であると認められる場合

(2) 合格時に郵送される「入学の手引」で申請について確認のうえ、入学後に申請してください。

(3) 免除の申請を行った者は、免除の許可・不許可が決定するまで、授業料の納入が猶予されます。

(注)「学資負担者」とは入学する者の学資を主として負担している者をいいます。

3. 入学料の免除及び徴収猶予並びに授業料の免除問い合わせ先

山口大学学生支援部学生支援課経済支援係 TEL:083-933-5611

第13 教育方法の特例について

大学院設置基準第14条では、「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業または研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる」旨規定されています。これを踏まえ、人間社会科学研究科共創科学専攻においては、大学院での履修を希望する社会人、教育者等に対して大学院設置基準第14条に定める特例による教育を実施します。

教育方法の特例を適用する場合は、指導教員や授業担当教員と相談のうえ、通常の履修に加えて、平日18:00～19:30及び特例の時間・時期に授業や指導を受けることができます。なお、一部の授業は通常の時間帯のみで開講される場合があります。

Ⅱ 人間社会科学研究科案内

1. 人間社会科学研究科の概要

本研究科は、人間科学、すなわち人文・社会・自然科学の主体たる「人間」を対象とし、これまでの人間の営為を研究する人文科学諸分野と、現在の人間社会をめぐる諸問題を研究する社会学、教育学、心理学、経済学、経営学等の社会科学分野、さらにデザイン学、データサイエンス等を相互に交流させることで、実践的かつ学際的に「人間」の生と社会の諸側面を探究する学問・研究分野である。

本研究科における学問・研究分野は、次の4つの研究領域が共同・連携して研究を行うことによって成果を挙げることができる。すなわち、人間社会の根源に迫る人文・社会科学の膨大な蓄積を体系的に咀嚼してその探究を深化させる「人文科学専攻」、多様化する人間行動の探究と臨床的实践力の融合を通して新たな心の科学の創成を目指す「臨床心理学専攻」、社会現象について自ら問いを発見し、その解決策を育み、豊かな社会の構築を目指す「経済学・経営学専攻」、人文・社会科学と現代科学技術の融合から社会問題の実践的解決を目指す「共創科学専攻」という、文系基礎学、応用人間社会科学の4つの専攻を研究科内に設置することによって、専門的学知の修得に加えて異分野間連携に基づいて自らの専門領域を俯瞰したり、学識を実践的に応用したりする能力を養うことができる。

本研究科は、人文学部・教育学部・経済学部・国際総合科学部の4学部の卒業生のみならず、留学生、地域の社会人を受け入れ、すでに実績をもつ東アジア研究科（博士課程）とも接続し、アジア諸国の未来に向けて、幅広い分野で貢献しうる人材の育成を目指す。

2. 共創科学専攻の概要

複雑で変化の著しい現代社会のうちに課題や可能性を見出し、その背景要因や構造を明らかにし、問題を解決したり新しい価値や仕組みを創出したりするには、多様な専門分野が共同し、その知を統合すること、すなわち「総合知」の活用が不可欠である。本専攻では人文知や科学知をはじめとする総合知を、統合的思考や分析的思考など異なる思考方法の組み合わせによって活用し、新しい文化的価値の創出や社会システムの設計ができる人材を育成する。

3. 教員・研究内容紹介

出願前に希望する指導教員に連絡、相談のうえ、出願書類（研究計画書）を作成・提出してください。

研究プログラム	研究コース	教員名		研究内容紹介	連絡先（メールアドレス）
人間文化創造プログラム	多文化共生コース	教授	北西 功一	アフリカ熱帯雨林地域に住むビグミー系狩猟採集民の自然の利用と現代社会における彼らの生活の変化、および、世界の湿潤熱帯地域のバナナの品種・栽培・利用・流通の比較研究から、人間と自然の関係の多様性について探求する。	kitanisi@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		教授	永井 涼子	主として、日本語による談話（母語話者同士、母語話者と非母語話者等）の分析を通じて、日本語のコミュニケーションにおける諸特徴を明らかにすることを課題とする。分析結果は日本語教育への援用を視野に入れた考察を行う。	nagair@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		教授	山本 冴里	複言語教育、日本語教育が専門。「単一言語志向が強烈な文脈で、様々な言語への興味や関心を育てるためにはどうすれば良いのか」という課題に取り組んでいるが、それとは多少離れていても、社会と言語に関心を持ち、複数性、境界、周縁、教育・・・といったキーワードに惹かれる方はぜひ。	saeri_y@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		准教授	小山 虎	我々人間やこの世界が実際にはどのようなものなのかについて、ロボット・AIなどの先端科学技が関わる哲学的問題、哲学的問題に取り組む際の方法論、19世紀以降の哲学史の再検討など多面的な観点から検討している。	koyama@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		准教授	田中 智輝	教育を通じて市民を育てるとはどういうことかという問いに、哲学および思想史の手法でアプローチする。ハンナ・アレントの思想をはじめとし、現代政治理論を手がかりに教育と政治をめぐる今日の課題に取り組む。	t-tomoki@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		准教授	南部 英彦	中国古代の思想書、詩文、歴史書を取り上げ、それらを時代の流れとの関わりを考慮しながら読み解くことで、著作者の「思想と表現」の「特徴と意味」を捉える。漢文理解に際しては、漢文訓読法を活用する。	hidehiko@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		准教授	宮永 愛子	自然会話データをもとに、我々が無意識に行っている日常会話の様々な現象（相づちやターン交替、スタイルシフトなど）について、日本語と他言語を比較しながら詳細に分析し、その普遍性や言語的特性を明らかにする。	miyanaga@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		准教授	山根 由美恵	主として日本近現代文学を対象にし、文学理論を踏まえながら解釈することで、時代を再考する視点や看過されてきた問題を主体的に見出し、考究する。	yumie@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		講師	中野 祥子	異文化間心理学を専門とし、文化移動に伴う異文化接触場面における認知・感情・行動について、量と質の両面から心理学的に検討する。特に外国人留学生、移民・難民、労働者の異文化適応や異文化間教育を主題としている。	s-nakano@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		講師	難波 えみ	現代日本語を対象に、基本的性質を理解したうえで、実際の用例を分析し、特質や規則性を考察する。内省や既存データに限らず、調査及び実験などの手法も活用し、研究対象となる文法現象・語彙の側面を探索する。	e-namba@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		講師	原田 拓馬	教育学、とりわけ教育社会学において蓄積を見せる質的研究アプローチを用いて、教師が抱える葛藤や子どもが直面する生きづらさを対象とした臨床的研究に取り組んでいる。	tharada@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		講師	藤本 正己	大学における教職員の能力開発が促される仕組みについて研究している。具体的には、大学の教職員がどのような経験を得ることによって、能力開発が促進されるのかを理論的・実証的に研究していく。	m-fujimoto(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		助教	川崎 千枝見	第二言語としての日本語の習得研究を中心に言語習得過程についてコーパスを用いた分析等によって検討する。また、子どもを対象とした地域日本語教室の役割や人材育成についても調査検討を行う。	ckawa@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
人間文化創造プログラム	表象文化・デザ	教授	上原 一明	東アジアにおける現代彫刻の制作とその意義を論理的に探求する。また木彫による仏像や欄間彫刻などを中心とした文化財復元の実践と研究を探索する。	uehara@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		教授	堀家 敬嗣	さまざまなイメージであふれる私たちの世界について、ある映画作品や、歌謡曲の構成要素としての歌詞の言葉、あるいは“湘南”という概念など、多様な位相や単位で表現として認識できる文化表象を対象に、その状態や機能の分析をとおして「イメージとはなにか」を考察する。	horike@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)

プログラム	インコース	准教授	CRUZ GUERRA CHRISTIAN FRANCISCO	生成AIを用いたメディア制作の技術と実践を学ぶ。ハードウェア環境、ソフトウェア運用、基礎開発技術を理解し、人間の創造性とAIの協働による新たな表現手法を探究する。	chris@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		准教授	坂口 和敏	現代社会が抱える複雑な課題を対象に、デザインを基軸とした学際的研究を行う。人間中心、自然との共生、共創的視点を重視し、社会やサービスをシステムとして捉えながら、インタラクティブシステムの設計理論と実践手法を探究する。	k-saka@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		准教授	平川 和明	木工芸・漆芸の伝統的な技術・技法を用いて実践的に今日的な要求に応える家具・プロダクト商品の研究開発を行うとともに、デジタルファブリケーションの活用などの現代的アプローチから、工芸分野の新たな造形表現の可能性を探索する。	hira@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		講師	白岩 洵	オペラや歌曲、宗教音楽に関する歌唱を伴う作品・演奏研究の他、声楽発声に関する方法論・指導法の研究を主とする。また、演奏の提供（音楽マネジメント）や音楽アウトリーチについても射程とする。	jun-s49@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		講師	富本 浩一郎	インクルーシブデザインの実践を通して、社会的環境や製品、サービスなどから排除された人々をデザインプロセスに取り込み、多様なユーザーと共に課題発見から解決策を創出する方法論について探究する。	fumoto@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
人間社会創造プログラム	データ理解・活用コース	教授	北本 卓也	数式処理の理論や教育への応用に関する研究を行っている。最新のテクノロジーを用いて数式の解析や操作を行い、学習効率の向上と共に学生の学習体験を豊かにすることを目的としている。	kitamoto@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		教授	熊谷 武洋	CGアニメ映像、デジタルアーカイブ、メタバース等のコンテンツ開発にかかるデジタル技術について理解・修得し、表現手法開発や実証作品制作を行う。加えてDX時代におけるコンテンツ産業の社会的背景や意義について考察を行う。	kumagai@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		教授	杉井 学	テキストマイニングや機械学習などの情報科学的な手法を組み合わせ、世の中に存在する様々な情報から人の目では気が付きにくい特徴や利用価値の高い情報抽出を目指す。	manabu@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		教授	中田 充	データベース技術や情報システムの活用を通して、教育DXの推進に関わる研究（授業におけるICT活用、教育データの利活用など）に従事している。共創科学専攻では、これらの技術や成果を活用して共生社会の実現に寄与する研究に取り組む。	mnakata@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		教授	野村 厚志	画像の基本的な処理として特徴抽出や領域分割があり、画像の性質やその利用目的に応じて適当な処理の方法を選択する必要がある。様々な方法が提案されているが、中でも協調・競合の機序による動的な計算手法を考える。	anomura@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		准教授	谷合 由章	数理モデル、AI、シミュレーション、データ分析を用いて、生体運動制御の基礎研究を進めるとともに、学習分析や画像・空間情報処理を応用した支援システムの開発に取り組んでいる。	taniai@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		准教授	村井 礼	学習支援やデータ分析などにおける人工知能を用いた具体的な問題解決方法について探究する。生成AI等の戦略的な活用に関するシステムを構築し、実際のデータ分析を通じて検証する。	muraip@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		講師	岩野 摩耶	量的データと質的データをあわせて、政策や企業戦略などを考察する。オープンデータ・調査データ等を活用し、統計的な手法やテキストマイニング技術を用いて、人の行動や見解の分析、将来予測などを行う。	maya.iwano@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
人間社会創造プログラム	人間社会・環境コース	教授	阿部 新	主としてサーキュラーエコノミー、国際資源循環に関して、国内外の政策、産業の実態の構造を捉えつつ、経済学的な視点から課題を抽出し、その解決策、方向性について分析を行う。	a_abe@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		教授	上田 真寿美	主としてライフステージにおける健康と環境・行動を取り扱う。特に、女性を取り巻く各ステージでの生活環境が健康に及ぼす影響や、その健康に対する行動（運動）の作用について検討する。	masumi-u@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
		教授	柴田 勝	樹木の光合成を中心として葉内の光応答を調べている。また、生態学的なアプローチから樹木の成長予測を行い、その応用として茶の予測技術の開発なども手掛けている。	shibata@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)

教授	松原 幸恵	イギリス憲法の基本原理である「法の支配」原理について、思想的背景からその後の歴史的展開、そして現代社会においてどのように位置づけられているか、恣意的権力行使抑制の観点から理論的に考察する。	yukiem@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
教授	LOEHR MARC	主としていろんな国・地域のメディアシステムの発展と現状を比較して、またはデジタル時代における従来のマスメディアの存続について考察する。	maru@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
准教授	秋谷 直矩	社会学（特にエスノメソドロジー・会話分析）・科学技術社会論を専門とし、専門家と市民の相互行為がどのように組み立てられているのかを、テクノロジーとのかかわりを視野に入れて探求している。	akiya@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
准教授	岡田 菜穂子	高等教育機関における障害等のある学生の修学支援上のニーズの動向や支援体制に関する分析を行い、多様なニーズに対応するための支援体制の在り方を検討する。	nahokoo@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
准教授	林 寛子	現代日本の社会変動をふまえてメリトクラシー（能力主義）という概念を理解し、教育社会学的視点から子どもたちの進路選択、不登校等の教育問題をテーマに、教育における社会的格差や教育機会の不平等について考察する。	hiroko.h@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
准教授	森 朋也	地域資源や自然環境の利用・管理、地域開発における社会的ジレンマを「コモンズ」という視点から実証的な研究を行っている。	moritomo@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
講師	杉野 弘明	人間と環境との"相互浸透作用"に着目する環境心理学・人間環境学を礎として、学際的な手法を活用しながら、地域づくりや合意形成、将来像の議論など、フィールドにおける課題解決に資する研究に取り組んでいる。	hsugino@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)
助教	川尻 剛士	公害・開発問題を経験した地域社会で生成・展開した教育／人間形成の歴史と現在に関する総合的研究に取り組んでいる。	t.kawajiri@(アドレス@以下→yamaguchi-u.ac.jp)

Ⅲ. 出願書類様式

1. 入学志願票
2. 受験票・写真票
3. 研究計画書
4. 受験承諾書（該当者のみ）
5. 出願資格事前審査申請書（該当者のみ）
6. 事前相談書（該当者のみ）

※本様式は、下記 HP からダウンロードすることが可能です。

<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/hes/exam/index.html>



令和 9 年 度
山口大学大学院人間社会科学研究科(修士課程)
入 学 志 願 票

			受験番号	*	
志 願 者	フリガナ		男・女		
	氏 名				
	外国籍の方はパスポート表記名				
	生 年 月 日		年 月 日		
	本 籍		都 道 府 県 ※ 日本国籍を有する者は、都道府県名のみ記入し、外国人は、国籍を記入してください。		
志 望 専 攻 等	専 攻		共 創 科 学 専 攻		
	研 究 コ ー ス		コ ー ス		
	希望専門分野 又は指導教員				
外 部 試 験	加点点希望有無		☐ 希望する ☐ 希望しない	英検・TOEIC (L&R)・TOEFL iBT・IELTS・日本語能力試験 ※利用する場合は、該当する項目を○で囲んでください。	
出 願 資 格	出身大学		大学 学部 学科・課程 年 月 日 卒 業 ・ 卒業見込		
	職 業		※ 有職者は、職業欄及び勤務先欄を記入し、無職者は、例えば「主婦」等の現在の状況を職業に記入してください。		
	勤 務 先	名 称		職 名	
		所 在 地	〒 電話番号：() —		
現 住 所		〒 電話番号：() — 携帯電話：() —			
受験票、合格通知書等 郵送先住所		〒			

【記入上の注意】

- 1 入学志願票記入の際は、学生募集要項を熟読してください。
タイプ以外の場合は、黒のペン又はボールペン（フリクション等の消えるボールペンは不可）を用い、
かい書で丁寧に記入してください。
- 2 裏面に履歴を記入し、所定欄に署名及び押印してください。
- 3 *印欄は、記入しないでください。

履 歴 書		
	年 月 日	事 項
学 歴	・ ・	
	・ ・	
	・ ・	
	・ ・	
	・ ・	
	・ ・	
	・ ・	
	・ ・	
	・ ・	
職 歴	・ ・	
	・ ・	
	・ ・	
	・ ・	
	・ ・	
	・ ・	

上記のとおり相違ありません。

年 月 日

氏 名

印

- (備考) 1 日本の大学を卒業した者は、高等学校卒業以降の学歴を記入してください。
2 外国の大学を卒業した者は、初等教育機関卒業以降の学歴を記入してください。

検定料支払領収書等 貼付欄
○ 支払領収書等を、はがれないようにしっかりと はり付けてください。

令和 9 年 度

山口大学大学院人間社会科学研究科(修士課程)

写 真 票

受験番号	*
志望専攻	共 創 科 学 専 攻
志望コース	コース
フリガナ	
氏 名	

*印欄は記入しないこと。

写 真
3 か月以内に撮影した上半身・無帽・正面向きのもの(4cm×3cm)を裏面に氏名を記入し、はってください。

令和 9 年 度

山口大学大学院人間社会科学研究科(修士課程)

受 験 票

受験番号	*
志望専攻	共 創 科 学 専 攻
志望コース	コース
フリガナ	
氏 名	

試 験 日 程

第1次試験：令和8年10月31日(土)

第2次試験：令和9年2月16日(火)

筆記試験	9 時 0 0 分～1 0 時 0 0 分
口述試験	1 0 時 3 0 分～
試験場	山口大学国際総合科学部

(備考) 学力検査当日は、8 時 3 0 分までに国際総合科学部学務係で受付を行ってください。

切
り
離
さ
な
い
で
く
だ
さ
い

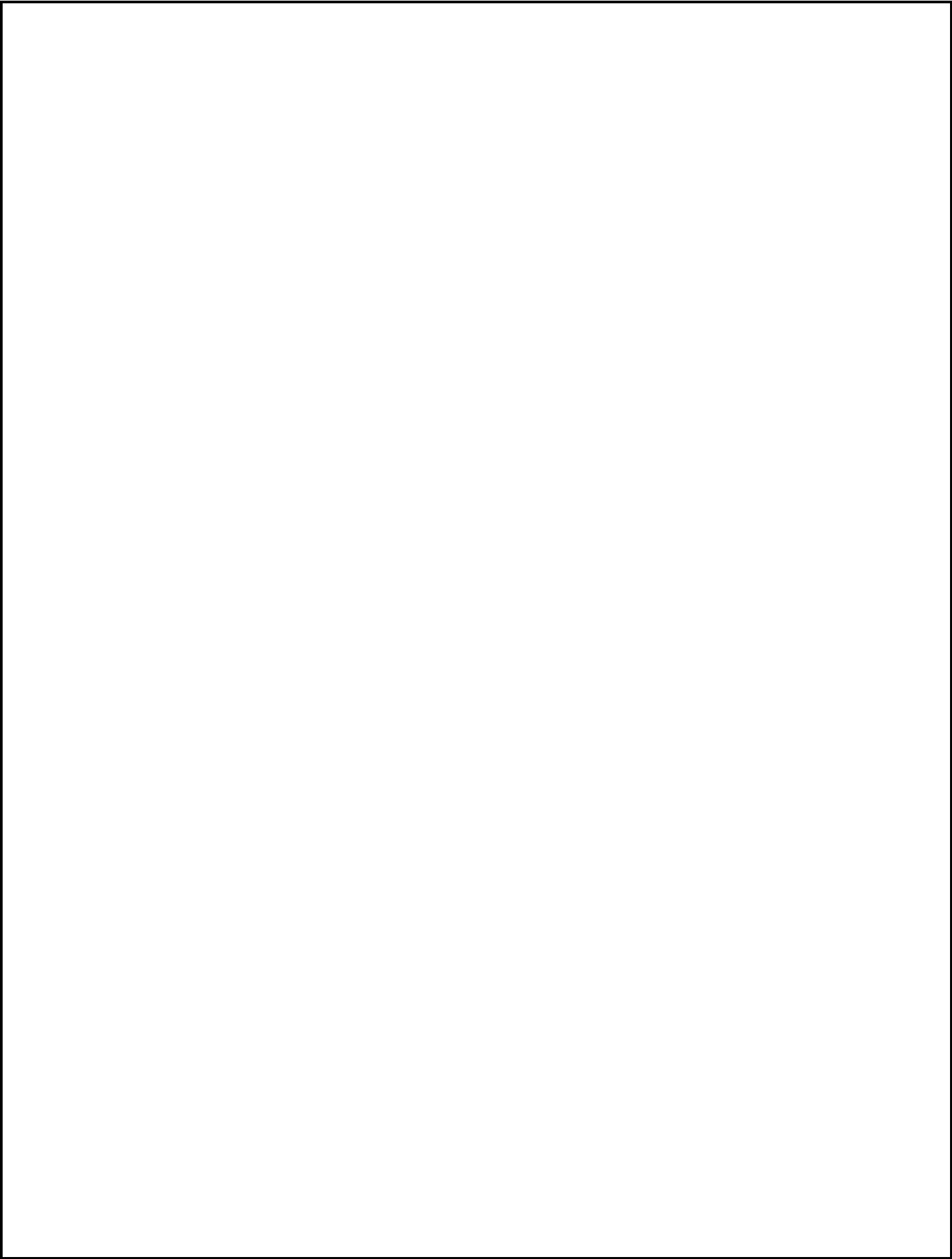
研 究 計 画 書

山口大学大学院人間社会科学研究科 共創科学専攻

フリガナ		生 年 月 日	年 月 日	受験番号 *	
氏 名					
志望コース	コース	志望指導教員名			
以下の1～5について、太枠内に収まるように記入してください。 1. 研究題目 2. 研究動機 3. 研究目的 4. 研究計画、研究の進め方 5. 卒業論文等の概要又は今までの研究活動の概要					
(以下、日本語又は英語で記入してください。) 1. 研究題目 2. 研究動機 3. 研究目的 4. 研究計画、研究の進め方 5. 卒業論文等の概要又は今までの研究活動の概要					

(注) 『受験番号』欄は、記入しないでください。

(裏面へ)



受 験 承 諾 書

山口大学大学院人間社会科学研究科長 殿

所 属 機 関 名

職 名

氏 名

上記の者が、貴研究科を受験し、合格した場合は、通学
することを承諾します。

令和 年 月 日

所 属 機 関 名

所 属 長 氏 名

職印

出願資格事前審査申請書

年 月 日

山口大学大学院人間社会科学研究科長 殿

氏 名 性別：男・女
生年月日 年 月 日
住 所
電 話
携帯電話

貴大学大学院人間社会科学研究科に志願するにあたり、下記専攻の出願資格事前審査を受けたく、所定の書類を添えて申請します。

記

志望専攻 共創科学専攻
志望コース
希望指導教員

事前審査該当項目（該当項目に○をしてください。）

- () 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- () 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和9年3月31日までに22歳に達するもの
- () 大学に3年以上在学した者
- () 外国において学校教育における15年の課程を修了した者
- () 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者
- () 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

学 歴	年 月	高等学校卒業
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	

注1. 学歴欄には高等学校卒業以降の学歴を記入してください。

職 歴	年 月		
	年 月		
	年 月		
	年 月		
	年 月		
	年 月		
教育職員免許状・保育士証等	取 得 年 月	種 類	番 号
	年 月		
	年 月		
	年 月		
	年 月		
	年 月		
	年 月		

令和 年 月 日

山口大学 副学長（教育学生担当） 殿

フリガナ

氏名

性別

住所〒

電話番号

出身学校名

事前相談書

山口大学に入学を志願したいので、下記のとおり事前に相談します。

記

1. 志望する学部・学科（課程、コース）及び入試種別

2. 障害の種類、程度

3. 受験上の配慮を希望する事項

4. 修学上の配慮を希望する事項

5. 大学等における生活状況等（主として授業関係）

6. その他

7. 添付書類

☐ 医師の診断書（写し可）または障害者手帳の写し ※配慮の根拠を示す書類として、いずれかを必ず添付してください。日本語または英語の診断書を推奨します。

☐ 日本留学試験の受験上の配慮事項決定通知書等（写し）
（申請し通知書が手元にある者）

☐ その他相談する際に必要と思われる参考資料

※募集要項の「障害等のある入学志願者との事前相談について」を確認の上、記入してください。